

1 鹿児島市火山防災トップシティ構想の目的

◆総合的な「桜島」火山防災力の底上げ

市民、事業者、行政による、桜島の火山防災に関する意識及び取組を高めることにより、総合的に桜島火山への理解促進及び防災力の底上げを図る。

◆桜島火山の魅力発信による交流人口を含めた関係人口の拡大

トップレベルの火山防災に取り組む「安心して観光できるかごしま」として、桜島火山の恵みなどの本市の魅力を発信することにより、交流人口を含めた関係人口の拡大を図る。

2 鹿児島市が目指す火山防災トップシティとしての姿

鹿児島市は、これからも桜島・火山と共生していくための取組を、市民や事業者と行政が一体となって向上させながら、国内外の活火山地域の被害軽減のために世界貢献を行える火山防災のトップシティとして、火山防災のモデル都市の役割を果たしていく。

●火山防災対策に係る視察受入、ノウハウの積極的提供・支援

- ・ 視察を積極的に受け入れる環境を整えるほか、対策の具体的なノウハウの提供、火山災害の被災地域への速やかな支援ができる体制を構築すべきである。

●火山防災に係る各種会議への積極的参加と誘致

- ・ 様々な火山防災関係会議へ積極的に参加するとともに、本市における会議開催誘致にも取り組むべきである。

●火山の恵みや火山防災資源の積極的活用

- ・ 火山の活動そのものを知ることや魅力を体験できる機会を提供すべきである。
- ・ 桜島火山そのものの魅力や火山がもたらす恵みの他、砂防施設などの防災施設を見どころのひとつとして捉え、市民や観光客向けのツアーを開発や発信拠点の設置など、火山防災観光を確立・リードしていくべきである。

●桜島島内の対策の深化と市街地側の対策の強化、防災訓練の多様化

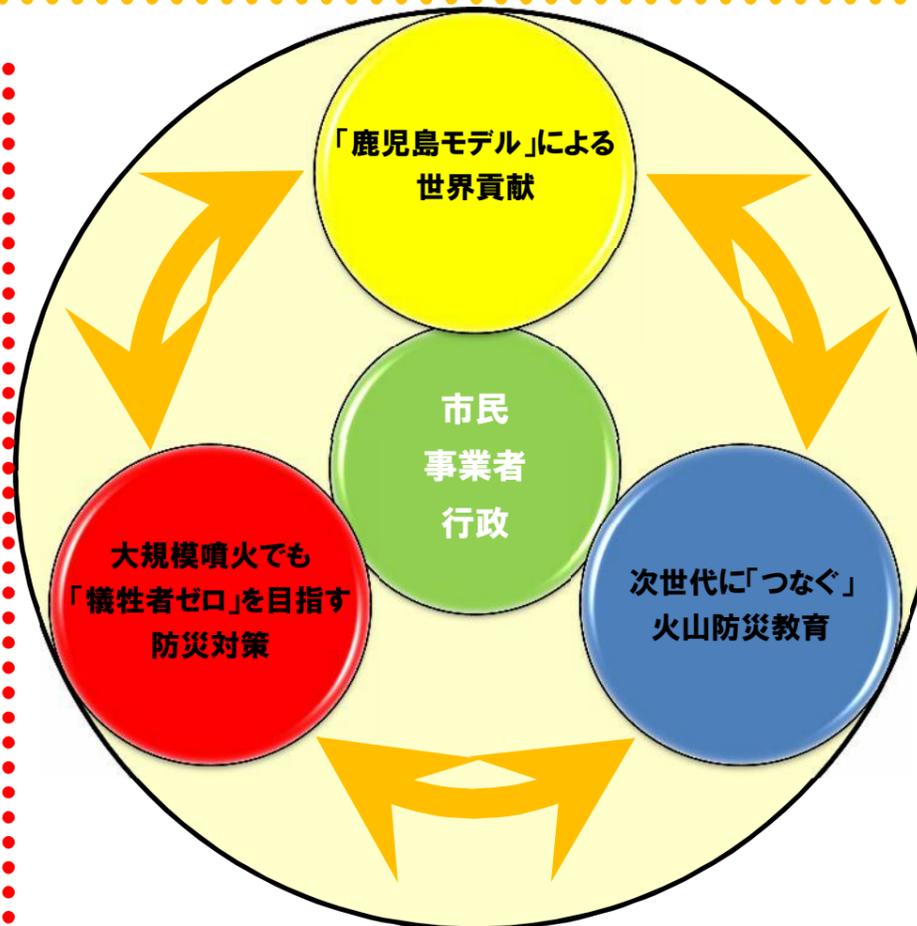
- ・ 桜島島内の避難体制について、市民のみならず、観光客を含め、これまで以上に深化させていくとともに、大量の軽石火山灰対策を進め、市街地側の安全対策を強化すべきである。
- ・ 在住外国人や海外からの観光客向けに火山災害発生時の情報発信等のきめ細やかな対応を図るべきである
- ・ 火山防災訓練については、一定の時期に拘らず開催することや、避難の方法、訓練の種目、気象条件、シナリオによらない訓練など、さらに多様化して強化を図るべきである。

●火山防災に係る多様な関係機関との連携強化

- ・ 周辺自治体との連携をさらに強化するとともに、リーダーシップを発揮して桜島周辺地域一帯の火山災害体制の底上げを図るべきである。
- ・ 広く国内外の火山防災の先進地域との情報共有等が図れる連携体制の構築に向けて、さらなる強化を図る
- ・ 情報発信のあり方の研究と実践に向け、報道機関との意見交換会を実施すべきである。

●火山防災体制向上に向けた研究の推進

- ・ 過去の大規模噴火時の対応や海外事例のほか、風評被害対策など、体制向上に向けて対策の研究を進め、さらなる強化を図るべきである。
- ・ 大規模な噴火が発生しても、それを逆手にとって観光素材に活用するなど、大正大噴火の事例も参考にしながら、速やかに経済復興に取り組むことができるしなやかな体制も研究すべきである。



<トップシティに向けての取組の柱のイメージ>

●市民、事業者を対象とした火山防災教育や研修の推進

- ・ 火山防災意識を醸成するため、児童・生徒に対する防災教育や市民や企業等に対する研修を充実すべきである。
- ・ 火山防災教育を推進していくために、取組が継続するよう、副読本等のツールを作成すべきである。

●火山防災に資する人材の育成

- ・ 火山防災に対する意識や理解を深める火山防災研修を充実させることで、市民、企業、行政関係者等それぞれの立場で火山防災をリードする人材を育成すべきである。

●火山防災教育を進めていくための枠組みづくりや手法の工夫

- ・ 市街地側の児童・生徒が実際に桜島の防災施設を訪れ、火山の専門家のお話を聞く機会を設けるなどの取組をすべきである。
- ・ 桜島の火山防災に係る各種素材や対策等を資料としてとりまとめ、周知・閲覧できるように、体験できる機会・ツアーの開発を含めたカリキュラムを構築すべきである。